札幌市公文書館講演会

講演録

日 時:平成30年8月25日(土)午後2時開会

場 所:札 幌 市 公 文 書 館 3 階 講 堂

◎開 会

○司会(高井) 皆さん、こんにちは。

私は、館長の高井と申します。

まだ時間がありますけれども、これから、公文書館講演会を始めます。

テーマは、「国際スポーツ・イベントの裏側」ということで、札幌ではこれまでもかなりのスポーツ大会をやっていますが、その裏側というか、ほかではなかなか聞けない話を今日はしていただきます。

講師の高橋さんについて、簡単にご紹介いたします。

高橋さんは、昭和51年に札幌市に採用され、その後、区役所勤務などを経て、平成元年、1989年ですが、当時、教育委員会体育部体育課というセクションがありまして、そこに勤務されたのをきっかけに、最終的には21年半、札幌市のスポーツ行政にかかわってきた方です。

特に、2002年のFIFAワールドカップサッカー、2007年のノルディックスキー世界選手権、2017年のアジア冬季競技大会の三つの大会については、専従という形でお仕事をされています。私は、たまたま前から知っていたのですけれども、これだけの経験をした人はほかにはいないものですから、ぜひお話をしていただきたいと思ってお願いしたところです。

それから、ここは公文書館というところです。実は、公文書を初めとしていろいろな資料があります。きょうも、後ろのほうに若干の展示を設けてあります。これについては講演の終了後にご説明いたしますが、この講演をきっかけに公文書を手にしてみていただきたいと思います。

それでは、高橋さん、お願いします。

◎講 演

○高橋

高橋と申します。どうぞよろしくお願いします。

今、紹介していただきましたように、本人が望んだ訳ではないのですが、スポーツ行政 に長らく関わっておりました。

札幌市では、たくさんのスポーツイベントを開催してきていますが、まずは冬季オリンピックが開催されて、そこから大きな総合大会が行われています。

1

主要スポーツイベント開催実績

◆札幌市開催地 主な国際大会と全国規模大会

1972.2.3~2.13	第11回冬亜オリッドック開催
1974(1949,1954,1958)	冬季国体(スキー)開催
1983.12	第9回世界ジュニアフィギュアス ケート選手権開催
1986.3.1~3.8	第1回マジマ冬亜健特大会開催
1987年	全国高等学校総合体育大会北海港開催
1989.1.28~9.22	第44回国民体育大会(はまなす国体) 北海遺開催
1990.3.9~3.14	第2回マジマ冬亜健特大会開催
19913.2~3.10	第15回コニパーシアード多亜大会開催
1998.12.2~12.3	NHK杯国際フィギュアスケート競技大会開催
2002.5.31~6.30	2002FIFAワールドカップ(6/1,6/3,6/7) 試(合
2003.10.31~11.7	第22回アジア野球選手権大会開催
2006.8.19~9.3	2006年パスケットボール世界選手権(8/19-24)15試合
2007.2.22~3.4	2007年ノルディックスキー世界選手推開紙
2008.4.13~4.19	2008年IIHF世界選手権ディビジョン I -日開催
2008.10.31~11.2	2008年世界ラリー選手権第14戦開催
2009.7.29~8.3	第25回アジア野球選手権大会開催
2010.2.25~2.28	冬季国体(スキー くしろサッポロ米雪国体)釧路市と共催
2010.9.9~9.12	2010年世界ラリー選手権第10戦闘催
2011.11.11~11.13	NHK杯国際フィギュアスケート競技大会 開催
2017年2.19~26	第8回マジマ冬季館特会く扎線-帯広ン開催予定
2019年9.6~10.20	ラグビーワールドカップ〈日本〉 開催
2020年7.24~8.9	東京オリ・パラ(サッカー会場)

字が小さくて申しわけないのですが、太字になっているところが国際大会です。オリンピックが終わって大体10年ぐらいでアジア冬季競技大会が行われて、1990年に第2回のアジア大会、翌年にユニバーシアード、2002年のFIFAワールドカップ、ノルディック、それから、アジア大会という大きな大会が開催されてきました。太字ではないところは、競技団体が主催して札幌市内で行われた大会です。札幌では、比較的たくさんの大会が開催されているところです。

スポーツイベントを開催するためには

- 札幌市議会の承認
- 国及び関係機関の承認
- 大会主催者との調整⇒契約書の締結
- 大会期間中使用する施設との調整
- 補助金、助成金等の調査及び申請
- 事業収入確保計画の承認
- 市民への協力要請、応援活動、ボランティア等

しかし、大会の誘致については、やりたいと言ってすぐに来るものではないのです。また、市役所が大会をやりたいと言って、では、誰にお断りもせずに開いているのかというと、札幌市議会に諮って承認を得るのです。要するに、立候補していいかどうかということを諮るわけです。そして、立候補していいということになると、次は、国、関係機関、文部科学省のスポーツ庁、外務省、総務省などの承認をいただきに行かなければいけません。ただ承認をいただくということではなくて、結果的には閣議了解とかいろいろなことをとっていかなければならず、現実的には非常に面倒くさい手続がたくさんあります。私も、随分と省庁に行って、いいことも悪いことも言われながら調整をしたこともございます。

その辺が大体整うと、今度は大会主催者の方々とお話をして、結果的には契約書を結んでいるのです。開催地契約というものがありまして、私も再任用とはいえ、まだ公務員の身分を有しているものですから、守秘義務があるため、余り個別具体には言えない部分があるのですが、やはり、大会主催者の権利を守るための契約書になりますので、どちらかというと、開催地としては非常に厳しい内容の契約が多いです。この辺は、後ほど具体的にお話ができるところがありますので、そちらでお話をさせていただきます。

そういうことが決まっていった中で、当然、大会をするためにいろいろな体育施設を使っていくわけです。区の体育館を使ったり、大倉山ジャンプ競技場を使ったり、白旗山競技場を使ったり、札幌ドームを使ったり、いろいろな施設を使うのですが、大会だからといって勝手に使えるわけではなくて、一般の市民の方々の利用もございますので、最低でも2年前とか、早ければ3年前ぐらいから、一般の市民の方の利用のご迷惑にならないように調整をかけていきます。また、使用料を払うとか、払わないとか、そういうお話も結構出てくるわけです。

それから、補助金、助成金についてです。大会を開催するとなったときに、皆様もいろ

いろなニュースを聞いていると思うのですが、東京オリ・パラの大会運営経費が非常に高いぞ、何でそんなにお金がかかるのだというような議論が出ています。同じように、札幌で大会をやろうとしてもたくさんのお金がかかりますので、いろいろな制度を使ってお金をできるだけ集めてきます。

ただ、昔、札幌オリンピックをやっているころは、当時の文部省で補助金を持っていたのですが、今は無くなっています。変わって何になっているかというと、totoくじです。totoのスポーツ振興くじがあって、その収益金が補助金に代わって回ってくるのです。スポーツ省が権利者ではなくて、独立行政法人日本スポーツ振興センターが管理する権限を持っているのです。そこに申請をして、幾らもらえるかを確認しながら準備作業をやっているわけです。

次に、助成金です。日本国内を探してみると、昔はお金持ちだった財閥系のところが市 民の活動に対してあまり高額ではありませんが助成金を出してくれます。

さらに、事業収入ですが、これがなかなか大変です。事業収入とは何かというと、札幌市が開催しているように見えるかもしれませんが、大体は組織委員会というものが作られまして、組織委員会が行政と民間の企業の方、例えば、北海道の職員、ホテルの関係者、輸送の関係者、道警、札幌市の職員などいろいろな人が集まって組織委員会を作って運営していくのですが、そこが大会運営費を直接的に稼いでいくということがあって、チケット収入とか、大会に理解をしていただける方々にお願いをして寄附金をいただいたり、郵政に頼んで記念切手を発行していただいて、その売り上げの何%かをいただくとか、記念硬貨もセットにして、売り上げの何%かをいただくということもあります。そういったことを調整していって、外側からできるだけお金を集めてきて、税金である市からの補助金をできるだけ減らす努力も実はしております。その辺の話も後ほどしたいと思います。

このほか、スポンサーの話もいろいろあるのですが、その辺の話はもう少し後でさせて いただきたいと思います。

次に、市民への協力要請です。こういったものがどんどん整っていったとき、大会をやるといってもなかなか理解していただけなかったり、大会をやっても、そんなことがあったのかというふうに誰も知らなかったということを、経験上、よく聞くのです。そういった部分をできるだけ周知していく、皆さんに知っていただくということで、市民への協力要請ということをたくさんやっています。あとは、応援活動です。学校に各国の応援活動をお願いしていったり、ボランティアに協力していただくということで、ボランティアの募集もやっていきます。

話が硬くなっているので、少しずつ柔らかくして、皆さんにもう少し伝わるように話を していきたいと思います。せっかく裏側の話と言っているのに、まだ余りしていませんの で、少しずつ裏側の話を出していこうと思います。

選ばれる開催地とはどんな場所か日本・北海道・札幌の優位性(魅力)は

必須条件(お約束)

- 魅力ある観光地、地名で誰もがイメージできること
- ・ 競技(都市)インフラの状況が整っていること
- 実行力があること(実績は保証と同じ)

優位性(魅力プラスα)

地域住民のポジティブな反応 期間中の盛り上り

※スポーツイベント開催地の選定は、個人が旅行先を選ぶ行為によく似ている。 興味と魅力を感じオプションの自由度が高い、お得感がある

実は、札幌市がいろいろな大会をやってきていて、大会主催者であるIOCやアジア・オリンピック評議会など、いろいろな競技団体やその統括をしているところに立候補していくときに、日本や北海道、札幌がどういうふうに見えているかが非常に大事になってくるのです。

よく言われることとしては、魅力ある観光地だということがすごく大事な条件になります。地名を言われたときに、その地名のイメージが世界各国の人の頭の中にぱっと浮かぶかどうかが大事になってきます。それから、都市インフラです。交通の便はいいか、ホテルはたくさんあるか、輸送手段はちゃんとしているのか、そういったことが整っているかどうかです。そして、大会をたくさんこなしたことがあるのかということです。実績があるかとよく問われるのです。あなた方は、この大会をちゃんとできるのかということです。そのときに、前に大会を開催した経験値があると、こういう大会をやりましたよと言うと、そういえばそういうことがあったねということをよく言っていただけます。

ここで、僕たちがいつも大会の仕事をやっているときに気をつけていることがあります。 札幌は、すごく有名で世界各国の人が知っているとよく言うのですが、実はそんなに知られていないのです。札幌という名前自体は知っていても、それが日本であるということが知られていなかったり、日本だとしても、日本のどこにあるのかということを知らないのです。札幌オリンピックがあったということはヨーロッパとか北欧の人は知っています。でも、そんなに詳しく知っているわけではないので、私たちがプレゼンテーションをするときに、札幌のまちはこういうまちです、札幌オリンピックを開催しましたということを切り口にしていって、約200万人の人が住んでいます、雪は1年間で6メートル降りますが、バスも地下鉄もちゃんと走ります、30分以内で市内をちゃんと移動できます、そういうこ とを言っていくわけです。

そういうことが言えるかにプラスして、優位性と書いていますが、もう一つのプラスアルファというのは、その大会が来ることを喜んでくれる住民なのかどうかか結構肝になります。大会が来ても、何でやっているのかとけげんな顔をされると、せっかく選手や役員の方々が入ってきても、歓迎されなければうれしくないですね。実は、札幌は国際大会をたくさんやっていて、楽しみ方をよく知っている方が住んでいらっしゃるので、入ってきたときに歓迎されたことに対してすごく感動を覚えるそうです。地域住民のポジティブな反応というのは、札幌の強みの一つになっています。

それから、始まってしまうと、期間中は結構盛り上がります。選手や役員の方が街中を歩いていても声をかけられたり、英会話をしている学生が声をかけたりとかいろいろあるそうです。そういうことをここのまちの人たちはしてくれるということと、そういうことを機会にして触れ合おうとする市民の方がたくさんいらっしゃるということで、期間中の盛り上がりがたくさんあります。

そこで、僕が何回か行ってきたときにいつも思うのが、自分がどこか海外旅行へ行こうとか、どこか旅行へ行こうとしたときに、地名とイメージが一致することが非常に大事だということです。役員の方々に話をしているときにも、札幌と言ったら、名前は聞いたことがあるよ、有名だよね、でも、どこにあるのと言われてガクっとくるときがあるのですが、そのときにお知らせするものを今のように整えていって、ご紹介をするのです。

さらに、プラスアルファのオプションの自由度です。食事がおいしいとか、お店がたく さんあるとか、薄野があるとか、地域の商店街が協力してくれるとか、そういったプレゼ ンテーションをできることがあります。実は、やりたいと言って手を挙げて大会が来るま ちはそうそうないと思います。それは、札幌が日本国内のまちから比べると比較的優位性 を持っているところだと感じています。

スポーツイベントの権益

- 権益の根拠「憲章」「開催契約」「ガイドライン」 「調整委員会」「主催者側監査人」などなど
- 知的財産は誰のものすべては主催者のもの
 「関係物」「約券表書会」の数

「開催地」「組織委員会」の権利と義務

権利(小)⇒開催地も組織委員会も権利の一部を代理執行するだけ 義務(大)⇒入出国に関わる国の補償・一般的価格の宿泊施設・広報PR・ リコグニッション・プロトコール・クリーンスタジアム・ ライツプロテクションプログラム・国際信号製作・安全確保・ 医事衛生・最新技術での情報処理・損害賠償保険への加入

知的財産の種類と保護(商標登録)
 大会名称、エンブレム、ロゴマーク、マスコット、アンセム、大会楽曲、映像、音声(テレビ放送、ラジオ放送、2次使用を含む)、供応権

さて、今まではいいところを言っただけですが、先ほどもお話ししましたように、スポーツイベントというのはすごくお金がかかるわけです。たくさんお金がかかります。そのときに、スポーツイベントの権益を使ってお金もうけをしたり、実際にいただいたお金を誰にどう分配するかが問題になってきます。

スポーツイベントの権益の根拠は、例えば、今回のアジア大会のときのことをお話しすると、アジア・オリンピック評議会憲章というものがあります。憲法みたいなものですね。 日本の法律で例えると、憲法みたいなものがあります。細かなことは決まっていません。 すばらしい大会にしましょう、世界を平和にしましょう、世界を平和にしましょう、アジアの地域を活性化しましょうということが書いてあります。その憲章を守ってこの大会を成長させましょうという開催契約を結ぶわけです。

ここまではごく一般的ですが、ガイドラインから先が開催する担当者としては難しいと ころです。では、大会を開催するに当たって、選手や役員をどのようなところに泊めなけ ればいけないか、泊める部屋の大きさやいろいろな基準を決めていくのがガイドラインで す。そのガイドラインを守るということが非常に大きな支出につながることが多いです。

ガイドラインがあっても100%細かに書いているわけではありません。ガイドラインがあって、選手ファースト、アスリートファーストといって、選手が一番いい環境で動けるようにしなさいということもガイドラインに書いてあるのですが、調整委員会という場でその役員の人たちと話し合って、では、こうしなさい、ああしなさいと指示があり、それはすごくお金がかかるから、少しレベルを落としてもいいかというような交渉をやっているのが調整委員会です。そういったものを話し合いで決めていって、実際に動かし始めるときに主催者側から監査人という人が来て、それをちゃんとやっているかどうか、見張りに

来るわけです。

こういったことがあるので、日本人は交渉が余り得意ではないのですけれども、交渉というのは非常に大事です。ハード・ネゴシエーションというか、お金が絡むことは非常に厳しいやりとりになります。嫌がらずにやらなければいけません。大概は英語ですが、私は日本語しか話せませんので、通訳の方をつけるのですけれども、時間がかかります。そして、拙い英語では伝わらないので、それこそ国際的な契約系の仕事ができるような方にお願いして通訳をしていただいて、丁々発止をやっていくということが実は行われています。

では、大会に関係してお金を生むものにはどういったものがあるのかというと、主に知的財産です。皆さんも、東京オリ・パラのロゴマークがスペインの国の劇場か何かのロゴマークと一緒だからだめだと一回取り下げになったのをご存じですね。あれと同じように、実は、大会ごとにロゴマークとかいろいろなものをつくって、そのつくったものを売り込んでいって、使用する権利を再販するのです。使用料を取ることでお金をいただきます。

どんなものがあるかというと、後でも少しお話ししますが、大会の名称やエンブレムです。アジア・オリンピック評議会の太陽のマークであったり、大会がもともと持っているものです。そして、大会が持っているマークと開催地が新たにつくるものがロゴマークになります。そして、マスコットです。エゾモンをご存じですか。アジア大会のときに使ったのがエゾモンです。最後のページで見ていただきます。それから、アンセムというのは、国歌とか大会の曲になります。大会楽曲というのは、イメージ的には、NHKなどがオリンピックの放送をする前に必ず前奏曲が入ってきますね。ああいった曲のことです。それから、競技などの映像や音声です。テレビ放送やラジオ放送での2次使用権とか、パブリックビューイングをやるとか、そういったものも全部含まれます。

こういったものが知的財産として法的に守られているのです。その守られたものは、他者が勝手に使えないということを法律でがちがちに固めているのです。では、それが使えるのは誰かというと、大会主催者とスポンサーとテレビ局ぐらいです。組織委員会や開催地は使えるかというと、実は使えないのです。許されていません。組織委員会としては、あなた方のために大会をやっているのだから、PRをしてみんなに周知をして、この大会の格式を上げるためにも僕たちに使わせてくださいという交渉をして、使い方を示して了解を得て使っているのです。開催地である札幌市役所も、組織委員会も、勝手に使えないのです。PRするのだから、もっと使えと議会などでよく言われます。PRが足りない、まちを歩いていても、どこにも何もないと怒られるのですが、実は、使うとお金を払わなければならないのです。お金を払わずに使えるようにしていくという交渉を調整委員会のようなところでやっていきます。そういったことがガイドラインで決められています。そのガイドラインで決められていることを崩していって、主催者側の権利を少しずつ譲渡してもらうことが準備から開催までの間に必要なことになります。

スポンサーも、一般的には大会主催者のスポンサーになるので、組織委員会のスポンサ

一ではないのです。実名を挙げてはいけないのですが、清涼飲料水の大きな会社が何十億円というお金を主催者にスポンサー料を払うのです。そうすると、主催者は、組織委員会や札幌市に対して、スケートリンクのこの辺に看板をいくつ付けろ、大きさはこうだということを言ってくるわけです。製作料をくれるのかと思ったら、くれないのです。こちらのお金で作って付けなければいけません。それはあまりにも御無体ですよねというお話をしていって、製作料を下さい、施設の使用料を下さいと。そういったことを含めてお金をもらうことを分配金という言い方をして、あなた方はこれだけもうけているのでしょう、開催地ではこれだけ負担しなければいけないのですよ、たくさん税金を使うと、市民から怒られるのです、議会で決められた金額はこれしかないのです、看板を作れません、分配金を下さいというやりとりをして、スポンサーのお金を分配していただくという作業を陰でたくさん苦労しながらやっています。

分配金をたくさんいただくために僕たちは何をするかというと、会場が決まったときに 看板を何枚付けられるかなのです。テレビで映ったときに、例えばスキージャンプですと、 上のほうから滑ってきても看板はほとんど映りませんから、まずは滑る前に座っていると きの後ろにどれだけ付けられるかです。それから、おりてきてブレーキングトラックでぐ るっと回りますけれども、あの辺でスピードが落ちますから、カメラでずっと追っていく と看板がよく見えるのです。そうすると、そこは高く売れます。瞬間しか映らないところ は安いのです。ある程度のもうけが出るように、いろいろな会場の配置を考えて、主催者 と協議をして、こういうふうに付けられるぞということで、その付けられるところに対し て、スポンサーが求める協力もするし、地元の企業などとも話をしますので、そこで得ら れたお金の何%かを下さいという話をしていくのが組織委員会の総務系のほうでは非常に 重要な仕事になります。大会をやっているだけではないのです。実は、裏でお金をできる だけもうけていこうという動きをしているのです。

そういうことするに当たって、権利と義務というものがあって、義務として守らなければいけないのが真ん中の色が少し違うところです。まず、選手や役員の方々が日本に入ってくるのですが、国交のない国もあれば、ビザがなければ入ってこられないとか、ビザが取りづらいとか、いろいろなところがあるわけです。そういった出入国にかかわる国の保証を取らないと大会は開催できません。保証もなかなか取れない場合が多いのですけれども、実績から言って、今まで大会をやったときに入れない国はなかったですよというようなことを言いながら、最後の最後まで国と調整をしていくということが僕たちのやっている作業の一つになります。

それから、宿泊施設の金額が変わらないことです。これは、結構大事なのです。よく、ニュースで聞きませんか。ソチオリンピックをやっていて、1部屋せいぜい1万円か2万円の部屋がそのときになると何十万円になってしまうのです。そういうことが世界では平気で起こります。日本は真面目ですからそれほどないのですけれども、一般的な価格表示をしていて、それが動かないということを約束しなければいけません。

そして、広報、PRをしっかりやりなさいということです。リコグニションというのは、街中に旗がつくことがありますね。街灯のところにずっとつくことがあります。リコグニションプログラムといって、歓迎のための装飾であったり、プロトコール、おもてなしですね。空港でお出迎えをするとか、ホテルに入ってくるときにお出迎えや送り出しをするというのはなかなか大変です。この辺も後で触れます。

クリーンスタジアムというのは、今の札幌ドームをイメージしてください。日ハムの野球中継をイメージしていただくと、外野フェンスに企業名がたくさんついていますね。それから、バッターボックスに選手が立ったときに映していると、裏側のフェンスに企業名がたくさんついています。実は、ああいうものを大会で使うときは全部消さなければならないのです。皆さんはご存じないと思うのですが、例えば、アジア大会のときに札幌ドームで開会式をやりましたが、そのときに企業名は一切出ていませんでした。隠しています。例えば塗り直しをしたりして、大会期間中はスポンサー名以外は一切載せないということがあるので、企業名を全部消すということをしています。

それから、ライツ・プロテクション・プログラムという難しい言葉ですが、便乗商法をとめましょうということです。2002年のワールドカップをやったときに、街中にサッカーを連想させるコマーシャルがあってはいけないと言われて、全部探して歩いて、便乗と思われるものは全部忠告をして歩いたのです。その権利を守るためのプログラムです。そういうことも地元としてはやらなければなりません。ただ、国内法があるので、法律的にもそうそう簡単に撤去させることはできませんので、3カ月ぐらいかかってしまいます。

国際信号の制作とありますが、テレビ映像をつくるのは組織委員会の仕事になってしまいます。単純に国内で放送するような信号ではなくて、海外に配信できる信号のつくり方ということなので、お金が結構かかるのですが、そういった制作についてもやらなければいけません。

当然、大会中は、どこに誰が行っても安全でなければいけませんし、病気やけがをした ときにすぐ対応できなければいけません。

それから、今一番困ることは、最新技術での情報処理、ITが今は非常に進んでいます。 実は、さっきも表がたくさんあったと思うのですが、ワールドカップサッカーをやったと きですら、あのときはまだ折り畳みの携帯ではなかったかと思います。スマートフォンで はない時代だったと思います。今は、スマートフォンが当たり前ですね。あのスマートフ オンというのは、パソコンを持って歩いているのと一緒なので、情報を拾えることが世界 的な常識になってしまっています。昔は、組織委員会でホームページを作って、見に来た い人は見に来ればいいやだったのですが、今ではそれは当たり前ではなくて、誰でもどこ でもその大会の情報を拾いたいと思ったら、スマートフォンやパソコンからすぐに拾いに 行けなければいけないという環境を作らないといけません。極端に言うと、データセンタ ーを作って、建物を用意して、ハードのコンピューターの機械を購入してそこに作って、 プログラマーにプログラムをさせて、欲しいという人たちに配信しますということやらな ければいけないので、とんでもないお金がかかるのです。東京オリ・パラでは幾らかかる のかなと非常に心配しています。

札幌は、アジア大会のときには札幌市内の企業にお願いをして、非常にリーズナブルな あり得ない金額でいろいろな対応をしていただきました。

少し言うと、東京オリ・パラがこれからありますね。スポンサーになる企業もたくさんいるのです。そういったところに、アジア大会があるのですけれども、練習にどうですかという話をして歩きました。東京オリ・パラでやる前に実証実験の場が必要ではないかという話をさせていただいて、本番でミスはできないですよね、札幌はコンパクトなまちで、エリアも期間もある程度限られていますので、そこで練習しませんかというお話をさせていただきました。そして、協力していただいた企業があって、それだけではないのですけれども、そういうやり方をして、比較的リーズナブルな金額で、さっきもお話ししました主催者側の監査人が予算を見て、こんな金額ではできないだろうと物すごく怒ったのですが、その金額でやり切りました。監査人からは、最後に、おまえらは大したものだなと言って帰っていったのですが、実は、そういうことも裏側で行われていました。

それから、損害賠償です。これは、天候が悪かったとかいろいろなことがあると、保証をしなければいけません。なぜかというと、予定のテレビ番組が無くなるのです。そうすると、テレビ放映権が入ってこなくなります。テレビ放映権がないということは、テレビに映るはずだった看板のスポンサーの金額も入ってこないのです。そのようなことがあるので、そのマイナス要素に保険をかけておきます。保険をかけておかないと、払えと言われたときに払えないものですから、そういったことも含めて実は損害賠償保険にも入っています。

どうですか。この辺のお話はおもしろいですか。まあまあですか。

もう少ししたら、皆さんから質問があれば、守秘義務に違反しない範囲でお答えしてい こうと思います。

夢と期待⇒実感として感じてもらうため

青少年の夢と希望を育み、選択肢と可能性を豊かにする

札幌の経済基盤は 第3次産業と支店経済 人・物・お金が滞ると衰退の危機

開催時と共に長期的視点で必要なこと

- 世界との競争、国内の地域間の差別化(競争)
- 訪れたい街、住みたい街、郷土愛、←魅力と誇り
- 短期及び長期的投資先としての信頼と魅力
- 街(地域)全体の知名度、実績、長期にわたり信頼可能

そういうようなことをやりながらも、では、何のために大会をやるのかということです。 この辺が非常に大切ですが、夢と期待、それを実感として感じてもらうためにやっている ということです。正直に言うと、スポーツ大会である必要性はないです。限定する必要性 はないのです。要するに、青少年の夢と希望を育んで、将来にわたるその子の人生の選択 肢と可能性を豊かにするのであれば、スポーツイベントでなくてもいいのです。それから、 札幌は、第3次産業が大きいですから、人と物とお金が滞ると死んでしまうまちですね。 観光客が来なくなったり、宿泊する人がいなくなったり、買い物してくれる人がいなくなったら、札幌というまちはあっという間に衰退します。そのためには、人、物、金が滞ら ないようにしないとなりません。

それがスポーツである必要性はないと思います。ただ、札幌のほかのまちと違うところ、特徴を生かす、それから、今までの実績を生かす、そして、人、物、お金が動くようにしていくのです。そして、それを民間に任せておいただけではなかなかうまくいきませんから、10年に1回くらいずつはこういうことを継続的にやりましょうというのが市の施策の中にあります。ただ、やっている本人としては、札幌にとってウインタースポーツは誇れる強さですが、絶対なものではなくて、スポーツをやるに当たっても、必ずそこを見失わないように仕事をしないと意味がないと思ってやっています。

そういうことを準備して、青少年の夢と希望と、人と物とお金が滞らないようにする、 やっていることがほかの自治体の二番煎じや同じような金太郎あめみたいなことをやって も、負けます。札幌がそんなことをずっとやっていても負けますので、違いを出すことで す。そして、その違いが伝わっていって、住みたいまちだ、住んでいていいまちだと誇れ るような感情を生み出していくことです。そして、さっき言った短期的な部分ではなくて、 長期的な投資先として信頼と魅力を得るためにやることも大切です。知名度、実績ですね。こういう大会をやるときに、ここまで大会の数をこなしてきているので、アジア・オリンピック評議会からは、札幌のことはもう信頼しているから、あなた方に任せますということをずっと言っていただけてきたのです。信頼に足る友だと言っていただいていましたので、そういうものは、一応、対外的評価として受けとめています。ただ、本当はそれを住んでいる人にも伝えなければいけないなと思うのですが、これがなかなか伝わらないものですから、きょう、こういう会を催していただいてお話しさせていただくのは非常にありがたいと思っております。

世界の声を聞いた! 冬の札幌「当たり前」は世界一

- 人口降雪機が必要ない
 6mの降雪がある、それでも市民生活に及ぼす影響は少ない
- 約200万人が生活する大都市
 世界中を探しても大都市と冬季スポーツが共存しているのは札幌だけ
- 都心から近い競技会場があり、宿泊施設が200を超える 競技会場にアクセスが良く、どのチームにも公平な環境が提供される
- 世界一の就航率を誇る羽田干歳間
 日本は違いけど、日本に入れば国内移動の便利さは折り紙つき
- 世界的食のプランド

とにかく、何を食べても美味い!世界に誇る素材の良さ

- 札幌には、オリンピックの本物のレガシーがある
 世界が見習うべきと認め、オリンピックの手本となる街と称えた施設の活用状況
 冬季スポーツに愛と誇りを持ち、大会を支え・楽しむ多くの市民がいる
- 世界が認める宮様大会「世界唯一の歴史と伝統」
 80年以上の歴史を刻み、すべての宮家から賜杯が提供されている国際大会は世界で唯一、世界が羨む価値あるもの

では、外側の人たちの評価はどうだったかということをここに書かせていただいています。

冬季競技をするまちとしては、間違いなく世界で一番です。いろいろな冬季オリンピックを開催したときのテレビを見た方はわかると思います。ソチでも雨が降っていましたね。ミラノでしたか、山の中のスキーのコースには雪があるのですが、周りは真っ茶色なのです。寒いけれども、雪がないとか、雨が降っているので、人工降雪機でつくった雪でコースを維持しているとか、それを考えると、札幌のまちは自然の雪が6メートルも降るのです。それでも、市民生活に及ぼす影響はほぼないに等しいのです。皆さんも普通に生活できていますね。多少、こんなに雪は要らないよとか、除雪で腰が痛いということはあると思うのですが、こんなイベントが飛んでしまうようなことはまずないのです。それが200万人が生活する大都市だということです。

北欧とかいろいろなところに行ってみると、大会をやっている場所は人口5万人ぐらい

の村や町なのです。ただ、札幌は200万人も人が住んでいます。競技会場へも片道大体30分ぐらいで行けてしまいます。よくよく考えると、ホテルもたくさんありますね。ほかの海外の開催地で問題になるのが、選手や役員がたくさん大挙していったときに、泊まる場所が競技会場から電車で1時間、2時間かかったりすることです。すごくお金持ちの強いチームは、お金に物を言わせて競技会場から近いところを先にとるのです。ですから、弱いチームはどんどん遠くへ行くので、会場に行って練習するだけで疲れてしまうという不公平さがあるとよく言われます。ただ、札幌は、宿泊施設が200以上あって、4万人以上の方が泊まれます。ちょっと手を広げると、小樽や定山渓などにも宿泊施設がございますので、不公平さがないすばらしいまちだということです。

日本に来る、札幌に来るというのは、大変なことです。ヨーロッパから来ると、大体16時間とか17時間かかってしまうのですが、日本に入ってさえしまえば、新千歳-羽田間は就航率が世界で一番というくらい本数が飛んでいますし、来てしまうと非常にいい場所です。

これは、選手ではなくて役員の方からよく言われることですが、とにかく何を食べてもおいしい、太ってしまうということです。ただ、選手の方々は、アスリートですので、食べるものが限定されているのです。距離系の選手を見ていると、かわいそうです。味のついていない山盛りのパスタに塩をかけて食べたりしています。その横で役員の人がエビフライを山盛りにとって、そんなに食べたら体に悪いだろうと思うような食事の仕方をしています。

もう一つは、まちに出て食事をとるときも、金額的にぼったくられないということです。 ほかの海外でやると、とんでもない金額をとられたりすることがあるのですが、日本はそ の辺が非常に真面目でサービスが整っていますので、とにかく食の関係については褒めら れることが非常に多いです。

それから、札幌にはオリンピックの本物のレガシーがあるということです。何かというと、実は、施設とかそんなものではありません。オリンピックをやったときの施設は確かに残っていますが、45年から50年くらい経っていて古いです。でも、残っていること自体がすごいのです。それを一般市民の方が毎日のように使っています。それがすごいのです。あわせてもう一つ言うと、競技大会が開催されたときに、自分の国の選手は応援するのですが、敵対する国は応援しないというのがどこの国に行ってもあるのですが、小さな国であろうと、敵対する国であろうと、入場行進で入ってきたときにこれだけ歓迎してくれるということを、実は、今回、VIPの方々に本当に褒められて、びっくりしたところです。それは、IOCの役員であったり、オリンピック委員会の役員であったり、そういう人たちから、本当にすばらしい、札幌はさすがに本物のレガシーがあるということを力強く言っていただきました。それを聞いただけで、いろいろと嫌な思いもたくさんしたのですが、まあ、許せるかなと。

ただ、外国人の言うことというのは100%信用してはいけないので、ある程度は眉唾で聞

きながらも、瞬間で言っている言葉というのは真実だろうと思いますので、私たちは、そういうことを受けとめて、そういうまちに住んでいるのだ、そういう力のあるまちなのだということを一般市民の方々にもお知らせする機会を持たなければいけないと思っています。

そういうことができるという部分でいくと、なぜそういう歴史や伝統を培ってきたかというと、僕が二十何年間、スポーツに携わっている中で考えてみたのが、宮様スキー大会です。皆さんも聞いたことがあると思います。考えてみれば、これは世界的にも国内的にもすごいことなのです。見ないとよく感じないのですけれども、宮家から賜杯が全部出ているのです。これはすごいことです。天皇杯や皇后杯、何々宮杯などがありますけれども、これが全部あるのです。そういう大会が85年ぐらい続いているというのは、世界的にも例がないです。ロイヤルファミリーがトロフィーをそれだけの数出している国際大会を毎年やっているのです。それは、FISの役員など冬季競技をやっているところはすばらしいことだと言います。ただ、僕たちはよく知らないのです。これからは、そういうことに気づいたときにはどうやってお知らせするかを僕たち市の職員としては考えて、皆様にお伝えしていかなければいけないと思います。

実は、自分たちのことを挙げて考えてはいけないとは思うのですが、外からの評価が正しく伝わるということは大切なことだと思うのです。やっぱり、それが札幌の力であるわけです。それを支えているのは、市役所ではありません。大会の開催を手伝ってくれている民間企業の方や宿泊、輸送、警備などに携わっている方々が上手にやってきてくれたからこそ、この地盤があるのです。札幌市役所は、たまにそういう組織委員会に派遣になって、そういうことがあるのでよろしくねとお願いして歩いているだけなのです。市役所の中にそういうものが余り残っていません。

ただ、これだけ長い間ずっとかかわっていたのは僕だけなので、そういうことに気づけ たのは僕の幸せなのかなと思っているところです。

世界の常識(グローバルスタンダード)日本の常識は世界には通用しないのか?

- スポーツ界は貴族の世界?
- ホストとゲスト(個人と組織⇒公私が曖昧)
- 宿泊料金が何倍にもなることが普通?
- 日本はどこのホテルでも部屋が小さい
- おもてなしのイメージ(サービスは対価が必要・おもてなしは?)
- 食へのこだわりとアスリートの食事
- お金持ち(関係役員)の常識は映画の世界並み
- 騙すほうが悪い?騙されるほうが悪い?
- 知らないと言う強さが武器?

それでは、良いことばかりなのかというと、スライドにグローバルスタンダードとあります。日本の常識は世界に通用しないのかと書いていますが、かなり違いがあります。海外でも特にヨーロッパのほうのスポーツの世界というのは貴族の世界です。もともとは学校で体育の授業をやっているところは海外ではほとんどなくて、スポーツクラブのようなものをつくったりしているのですけれども、スポーツの発祥自体は貴族の遊びから来ています。テニスもそうですし、卓球もそうですし、何でもそうですけれども、そういったものでいくと、地域の貴族の方々にお金があって、地域に貢献しないと自分たちの立場が危うい時代にもなってくるので、地域の貴族の方々が先頭に立って地域の振興のためにいろいろなことをやっているというのがベースにあります。日本ではこのような実態はありません。

日本のスポーツの歴史というのは、社会体育、学校体育から始まっています。学校で教わる体育の授業と、社会に出て、企業に所属する実業団スポーツが大人になってからの場になりますが、今は経済的に大変厳しい時代で少なくなっていますので、活動の場は限られます。あとは、プロスポーツで言うと、つい最近までは野球だけでしたが、今はサッカーやバスケットボールも出てきています。ただ、プロとして所属し通用する人はそうそういるわけではありません。

そういう背景の違いでいうと、海外では貴族の方々がやりますので、ホストとゲストの関係が柱になり、日本は個人と組織の公私がはっきり分かれます。公私混同してはいけない、何で税金で飯を食わせるのかと怒られてしまいます。しかし、貴族の方々はポケットマネーでやるのです。ただ、それは公私なのかどうなのか、明確なものは何もないです。そういうところで生活している人々が日本に来てサービスを受けたときに、感性の違いに

驚かれます。または、日本人が海外に行ってそういう方々と触れ合ったときに対応の仕方が全く違いますので戸惑うことが多くあります。

これを言っていいかどうかわからないですが、オリンピックを招致するときに闇のお金がすごく動くと言われているのですけれども、そういった見え方の原因の一つではないかと僕は思っています。札幌がやったということではないですよ。誤解しないでくださいね。先ほども言いましたけれども、海外では宿泊施設やホテルの料金が変わるなんて、当たり前です。ふだんは1万円や2万円の部屋が10万円や20万円になってしまって、1週間押さえようと思ったら、先に100万円を払えとか平気で言ってくるわけです。それから、日本のホテルでは、どこの大きい部屋を紹介しても小さいと怒られます。市内の有名な大きいホテルだと思って自信を持って紹介すると、こんな小さい部屋しかないのかと言われます。ロイヤルスイートの部屋を見せても、ここの壁はとってくれないかと簡単に言われてしまいます。誰が言ったとは言えませんけれどもね。

それと、日本人と外国人ではおもてなしのイメージが全然違います。サービスは対価が必要というのが大体は海外のほうです。よく、日本のおもてなしはすごいとかなんとか言うのですが、それは対価を求めないからだというのもあると思います。それと、日本独特の心づくしということもあると思います。そういった違いは非常に大きくあると思います。そして、先ほど触れてしまいましたが、食へのこだわりとアスリートの食事は全く別物ということです。ですから、僕たちが選手の泊まるホテルで用意するものというのは、工夫はしますが、地域の特産をどこまで生かせるかというと、生かしきれない環境にあります。

それから、さっき言った海外役員の方々のように、色々な方がいますが、お金持ちのレベルも様々で、私が感じた違いは映画の世界並みです。お国に帰られると、すごく有名な人なのです。その人が住んでいる家も御殿のような家で、召使が何十人かいるみたいな生活をされている方々が役員として来るわけです。

ョーロッパのほうの方々というのは、そういう違いに対してある程度慣れてきていますので、余りうるさいことは言わないのですが、今回、アジア大会をやって、アジアは経済発展もあとになって伸びてきているところですから、そういった意味ではお金持ちも歴史が浅く、なかなか慣れがないのかなと。雪が降っている道を革靴で歩いたときに、どなり散らした役員がいますから。ヨーロッパの人はそういうことがないですけれども、そういうことは実例としてあるのです。おれを雪の上を歩かせるのか、なぜあそこに車をつけないのかと怒る人もいるのです。その辺のことを考えると、この人たちの常識は私たちの常識とは違うなと感じます。

そして、このようなことも起こります。騙すほうが悪いのか、騙されるほうが悪いのか。 例えば、たくさん食べたり飲んだりしていって、ふっといなくなるので、お勘定はと聞く と、誰々につけておいてと。でも、その誰々は知らないということがよくあるわけです。 そういうことは、海外ではごく普通に起こりやすいです。知らない振りという強さは海外 の人がよく使う武器だと感じます。本当はわかっているじゃないですか貴方と思う場面が たくさんあるのですけれども、そうなの、知らなかった、ごめんと言って、いいだけやっ てしまうとか、いろいろなことが起きているわけで、具体には言いづらいところもたくさ んあります。

7

直接影響を受ける国際情勢と経済

- 国際紛争やテロ活動が行われた地域の参加
- 原油生産量調整問題
- イギリスEU離脱問題(株価の乱高下)
- 世界通貨の信頼度の変動
 ※為替への影響は外貨換金時で大きく増減
 ※入出国調整(国交の無い国・制裁対象国)
- 近頃でいえば仮想通貨も影響を与える要素

もう一つ、組織委員会の人間として苦労した部分として、世界的に起きていることが国内でこれだけ影響を起こすということです。国際紛争やテロなどが行われた地域の方たちが参加されるとなると、警備体制が変わりますし、入出国の手続も変わります。アジア大会のときにもミサイル報道がありましたね。その都度、本当に苦労した職員がいます。来るのか、来ないのか、調整内容も日々変わり最後の最後までわからなかったということもありました。

9.11の関係でいくと、イスラムの関係の国とヨーロッパの関係の国の方々です。特に、いろいろなところでテロが起きたりすると、そういう国の参加のときには非常に配慮が必要になって警備計画自体が変わるという状況が生まれてきます。

また、OPECとか、原油の生産量の調整とか、これは何が問題かというと、原油価格が上がると為替にも影響しますし、値上がりはすごく簡単に影響するのですが、値下がりはなかなかしないのです。ですから、冬場の大会は結構な燃料を使いますので、予算組みをしていても価格変化でどんどん圧迫されてしまいます。実際に大会をやっていると、国内でやっているのに海外で起きたことがこれだけ影響するのかということが現実に起こるのです。

これは、つくってからちょっと時間がたっているのですが、国際情勢とかですね。こう

いったものは、為替の部分で影響しています。私たちは、ドル建てで契約します。それをいつの段階で円に交換するかが肝になってきて、円が安いと、ドルを円に換えたときに、1割得をする、2割得をするということがあります。100円で契約していて、110円になるか、九十何円になるか、これだけでも予算組みしていたものががらっと変わってしまいますので、為替が僕たちの仕事にこれだけ影響するのだということを実感として得られました。今回も乱高下したのですが、最後に換金するときに円が若干安くて、想定していたよりもレートがよかったので、ちょっとプラスになったということもあります。

仮想通貨がこのごろは下火になっています。その当時は仮想通貨もいろいろ影響するかなと思っていたのですけれども、さほど影響はなかったと思います。

では、これで前半を終了したいと思います。

後半は、アジア大会の実例を挙げてもう少しご説明できればと思います。

休憩をとろうと思いますが、その前に何かご質問はありますか。または、この後でこれ は聞きたい、言える範囲で教えてほしいということがあれば、お答えします。

なければ、5分ほど休憩をとっていただければと思います。

〔 休 憩 〕

○高橋 後半では、皆さんはお疲れでしょうから、気分転換にPRビデオをお見せしたいと思います。これは、アジア大会のときに、札幌の子どもたちに将来の夢と希望を持っていただきたいという思いを込めて、広報・PR用のものとしてつくったのですが、内容的には僕達の思いが多少入っていると思って見ていただければと思います。

[ビデオの上映]

○高橋 今の映像を見たことがある人はいますか。

あまりご覧いただけなかったようですね。まち中でも一生懸命PRのために流しました。 僕は、こういう大会とかいろいろな広報をやってきたのですが、皆さんが事前に今回の ような機会があって、そのあとに大会前にまち中を歩くと、ああ、ここにもある、ここに もあると気がつかれると思います。ただ、実際には物量をすごい数をやっても、アジア大 会ということによほどの関心がないと、残念ながら目の前にあっても気づきません。

そういうことがありまして、議会の先生に怒られたりしながら一生懸命準備を進めるのですが、効果を上げるのはなかなか難しいと思いながらやっています。

今、前段のお話をしながら見ていただいたので、皆様には制作の意図が多少なりとも伝わったと思っております。

第8回のアジア冬季大会を題材にして、前段話した内容を、実例的なものでお話しして いきます。



先ほど、札幌オリンピックが開催されたまちであって、そのレガシーがというのをハードの部分として見ていただければと思います。

公の施設については、いろいろな関係施設が20以上あったのですが、競技会場などの開・ 閉会式の会場としては13施設を使っています。

そのうちの赤い字のところは、札幌オリンピック当初からあるものです。大倉山ジャンプ競技場、宮の森ジャンプ競技場、サッポロテイネスキー場、それから、真駒内のアイスアリーナ、さらに、月寒体育館、美香保体育館、西岡のバイアスロン競技場などですが、こういった施設が札幌オリンピックのときにも使われていて、45年から50年ぐらいの歴史を刻んでいます。今まさにまだ現役で使われているのがすごいということを理解していただければと思います。

開催地裁赛	無缺款	推別敦	参加图等	参加人敦
第1回(1986)札幌	4競技	7维86	7	430人
第2回(1990)札幌	4競技	6 2 81	10	441人
第3回(1996)ハルビン(中国)	4競技	S#ESI	17	702人
第4回(1999)カンウォン(韓国)	4競技	7種別	21	798人
第5回(2003) 青森	5競技	118289	29	1,016人
日本代表選手団 金2	4、銀23、銅20	派遣選手28	名	
第6回(2007) 長春(中國)	5競技	10289	26	1,101人
日本代表選手団 金1	3、銀9、銅14	派遣選手175	8	
第 7回(2011)アスタナ・アルマティ(カザフスタン)	5競技	118299	26	(786人)※
日本代表選手団 金1	3、銀24、銅17	派遣選手16	8 名	
第8回(2017)札橋・帯広	5雙技	118891	約32方面	約2,000人

※参加人数は役員及び選手の合針ですが、第7回大会は選手のみの合針です。

過去の開催都市の位置



これは、アジア大会の過去大会の実績です。

第1回目は、1986年に札幌で開催されています。これは、札幌オリンピックが行われた 1972年から10年ちょっとです。まさに施設などがある、大会を運営する能力がある、そう いうことを世界中が客観的に知っている状況の中で、せっかくだからアジア冬季競技大会 をやらないかいということになりました。

アジア大会というのは、もともとは夏季大会しかなかったのです。ですから、冬季の大会というのは、実はここで初めて生まれたわけで、発祥の地が札幌なのです。

それから、第2回はまた札幌になっています。実は、この開催地はインドが招致していたのですが、前の年になって急にできませんという返事をしてきたのです。まずいね、やらないわけにいかないではないかといったときに、札幌さん、もう一回お願いしますと言われました。

実は、この1990年の次の年、91年に、ユニバーシアード冬季競技大会が札幌で開催されるということで、ユニバーシアードの組織委員会が立ち上がっていたのです。そこがプレ大会としてアジア大会を開催しましょうということで受けて、やっています。ですから、種目などはある程度制限された中で行われました。その後、中国、韓国、青森がありました。

青森大会のときは、皆さんも記憶にあると思うのですが、万景峰号という船で、きれいな女性たちが応援するためにたくさんの押し寄せたのがニュースになりました。僕も記憶があるのはそれだけです。競技内容はあまり記憶がなかったのですが、青森大会が第5回目に行われています。

問題なのは、この後の二つの大会です。中国とカザフスタンです。

さほど関心がない方はわからないかと思うのですが、実は、次の冬季オリンピックは中 国で開催されます。

これは、今回、中国で決定するときに残った候補地の二つなのです。アスタナとアルマトイのカザフスタン、そして、中国です。

この両国は、オリンピック冬季大会を招致するためにアジア大会をやっています。すごくお金をかけてやったようで、詳細がわからないぐらいお金がかかっているらしいです。オリンピック並みにお金をかけているらしいのです。これは公式の数字として発表されていますのでお話しすると、第5回の青森大会は35億円の運営経費でやっています。6回目以降にくると200億円とか400億円の運営経費が使われています。これは、施設の整備費などは別で、札幌市の経験から見て想像以上の金額がかけられています。

そして、今回の札幌開催が決まりました。僕には急な話しで、招致が決まった後に、ちょっと来てやってちょうだいということになりました。正直に言うと、心の準備も整わず 経過も知らずとても驚きました。

その頃の僕は、その前の年に道庁に派遣になっていてAPECをやって、それが7月に終わって円山動物園に異動、2年ぐらいはいるのかと思ったのですが、招致決定でアジア大会に行きなさいと言われて、9カ月目で円山動物園を異動になっています。

着任すると、議会などはもう全部が終了していて、青森大会と同じ金額でやることが決まっていました。しかし、このときの前回2大会は、200億円とか400億円ということでし

たが、それは想像の金額で、実際はオリンピック招致の国家事業として、もっと金額をかけたらしいのです。この変化を例えると軽自動車から、いきなり超高級外車というグレードになり、また、現実的な軽自動車でやるという流れになったのですが、一度経験した参加国から、今さらそんな小さい車には乗れませんということを言われるような中で準備を進めた状況でした。

先ほど、過去の開催都市を見ていただきました。カザフスタンでは、アスタナとアルマトイという二つの場所で開催されました。上がスキーで、下がスケートの会場になったらしいです。そのほか、ハルビン、長春、江原道(カンウォン)、青森、札幌ということで、今回の第8回大会は札幌と帯広で開催いたしました。

五輪マークの配色 (5大陸とか水、砂、土、木、火) ※5大陸には色分けなし、黄色がアジアは定説の一つ

参考までに言うと、五輪マークと配色ですが、大陸ごとに色分けしたようなものが色々と残っています。見ていただいているのは一例で、僕のつくったデータではありません。ただ、今の時代でいうと、どこの大陸が何色ということはありませんとIOCやJOCで言っています。アジアは黄色人種が住んでいるので黄色とか、現代ではなかなか言えないことだと思いますが、僕が子供のころ、そんな話を何となく遠回りに聞いたような気がします。5色の意味合いというのは、水、砂、土、木、火を表現しているそうです。

中東/東南アジアの施設



24-KAY (UAE)



僕は、アジアの経済発展がすごいと言いました。冬季大会に参加する国の数もめちゃく ちゃ増えてきています。なぜかというと、その背景として写真にあるように、室内スキー 場が砂漠のど真ん中に作られています。場所はドバイですから、物すごく暑いところです が、そこに室内のスキー場があります。

それから、ショッピングモールの中にスケート場があるのです。札幌にもあるような大きなショッピングモールのセンターのところにスケート場があるという状況です。日中は普通の人たちが貸しスケートで滑って、夜になるとアイスホッケーの練習場に変わったりするということで、ドバイ、タイ、マレーシア、シンガポールといった国のショッピングモールの中にあります。

これは、オリンピックには出られないけれども、アジア大会でオリンピックと同じものを味わって、そこで自分たちが力をつけていって、将来、オリンピックに出ようというものが、今、アジアのスポーツ界に非常に強く表れてきています。

実は、冬季競技というのは、もともとお金持ちの競技と言われています。経済状況が非常に影響しやすいのです。国内の状況で、バブルのころは「私をスキーに連れてって」という映画ができるぐらい冬季競技がはやったのですが、経済の下火と同様にその後下火になっています。

経済発展を背景に、アジア全体としては、冬季競技に非常に興味を持っています。観光 と同様に、冬の気候などにすごく強い憧れを持っているようです。私たちが冬になると、 ハワイへ行きたいとか、グアムに行きたいとか、暖かい地域にリゾートへ行きたいと思う のと同じように、東南アジアの方々としては、真っ白な雪があるきれいな山に行きたい、 雪の中に飛び込みたいというような憧れを持っているようです。

そういったアジア発展の力を札幌市にできるだけ引き込み、人、物、金が動くようにしていきたいという検討の中で、アジア大会も誘致、開催、評価を受けていくという方向性が示されています。

今回大会の実数値

- OCA加盟45の国と地域の内30の国と地域
- ゲスト参加オセアニアの2か国(オーストラリア・ニュージーランド)
- 合計32か国

	** ho 70 = #7	11618	メダル獲得数					
	参加選手数 役員数	1.164名			金	銀	銅	āt
:	NOC関係者 合計	210名 2.010名	1	日本	27	21	26	74
	ポランティア登録	4.600名	2	大韓民国	16	18	16 5	50
:	各競技団体運営役員数 TVマスコミ関係者	2,400名	3	中華人民共和国	12	14	9 3	35
•	觀客数	約90,000人	4	カザフスタン	9	11	12 3	32
			5	朝鮮民主主義 人民共和国	0	0	1	1

OCAの加盟国45の国と地域、そのうちの30の国と地域が今回の札幌の大会に来ました。 そこに、なぜかオセアニアの2カ国が入ってきました。話はもともと出ていたようですが、 今回は、オーストラリアとニュージーランドがゲストとしてふえています。

結果的には、選手、役員の総合計2,010人、それから、ボランティア登録数が5,000人を目指して4,600人となりました。これはすごい数です。テレビ、マスコミの関係者が2,400名です。これは、中国のCCTVとか韓国のKBSなどいろいろなところが来ています。観客数は9万人ですが、これは有料観客数ということで生数字です。

ここで何を言いたいかというと、札幌オリンピックのときの規模を知っていますか。皆さんも良くわからないと思います。僕も余り詳しく調べたわけではないのですが、選手、役員の数だけでいくと約1,700人ぐらいです。ですから、今回のほうが大きいのです。競技数も今回のアジア大会のほうが多いのです。使った会場の数も多いのです。組織委員会の人間は115人ぐらいです。

それでは、1972年の札幌オリンピックを開催したときに運営主体となった方は何人いたかというと、オリンピック局というものがありまして約1,000人いました。

単純に比較対照はできないのですが、札幌オリンピックよりも大きい大会を10分の1の 人数でやったことになりますので、ぜひ褒めていただきたいと思います。正直、死にそう になりました。ここにはその当時の職員の方が何人か来ているのですが、朝出勤すると泊まり込みをした職員がいて、床で生きているのか、死んでいるのか、揺すってみないとわからないような状態もあった中でやっていました。実はブラック企業並みだったのです。

ここからですが、皆さん、口は固いですか。ここのドアを出たときに忘れていただけますか。それであれば、多少なりとも実名を挙げるとか、いろいろなことを言えます。約束を守れないようであれば言いませんが、とりあえず適当にお話しします。

先ほど言いましたように、僕が異動したときに、青森大会と同じレベルと決まっていて、 青森大会と同じやり方と聞いていたのですが、どんどんハードルが上がりました。

アジア大会の準備をしている最中に、札幌市の当時の市長が、オリンピックを招致するという話になりまして、議会を通して札幌にオリンピックを招致するという方向性になりまして、ニュースにもなったわけです。ですから、オリンピックを招致する街がアジア大会で変なことはしてはいけないと、期待が膨らみ風当たりがどんどん強くなるのですが、予算は35億円のままということです。

常識的に考えても、青森の35億円のころから10年以上も経ち、青森の土地代と札幌市の 土地代を比べてみても違いがあるように、施設使用料にも違いがあります。また、その当 時のバスのチャーター料なども、白ナンバーのバス問題などいろいろなことがあって、規 制がかかって、当たり前ですが、営業車以外は使用禁止となり、チャーター料自体もすご く値上がりしています。

そもそも、参加者の人の数が違うのです。人が増えればお金が増えます。ご飯を食べていただくのも準備する部屋の数も変わります。それなのに同じ金額でやるとしたら、レベルを落とすしかありません。しかし、レベルを落とすとオリンピック招致に支障があると言われるのです。そういう中で、どうしたらいいかわからない状態にずっと置かれました。

その他にも、話しましたが、インターネットで全ての情報を提供するということも、35 億円でやるのであれば、できるレベルはホームページを整えておいて、みんながホームページを見てもらう、普通にホームページの内容だけを整えるレベルですが、近年はリアルタイムに、どこの会場であっても、競技役員全員が即座にわからなければいけないのだと調整委員会で指導され、否定するとに怒られるわけです。近い関係者に相談しても35億円でやりなさいと言う状況は変わらず、僕は2年間ぐらいずっと板挟みになり、正直に言いまして、すり減ってなくなりそうでした。

派遣になっている人や企業から来てくれている人たちは事情がよくわかりますから、そんなむちゃを言われてもできるわけがないよねと言います。みんなで苦労するのだからできるだけ努力して近づけていこうと言うのですが、限界があります。そこでも、本当に心ない言葉を吐く人が身近にいると心が壊れそうになります。

そう言いながらも、先ほど言ったとおり、市内の企業とか関係者や市民の中にはそれだけの実力、スキル、経験などを持っている人たちがいるので、本当に協力関係をつくりや

すいのです。これが本当の財産だと思っています。

もう一つ外からの話で、やっぱりだったのは、東京オリンピック・パラリンピックがあります。

ある人たちが言うわけです。悪いけれども、東京オリンピック・パラリンピックの前に、 国際大会の総合大会は札幌市だけですからね。2020年の前の17年でしょう、この17年にう まく成功させて、20年への期待と来る楽しみをつくりなさいと言います。お金をくれます かと言ったら、いや、僕たちはお金を持っていませんからと言い。

スポーツ庁にちゃんと話をしていて、totoくじなどの補助金などをくれるようになっているからという説明を受け、素直にスポーツ庁に行きましたら、何の話ですか、誰がそんな約束をしていますかということでした。確認や了解されてない、国の了承はとっていないと言われまして、そこから聞いた話と同じ状態に戻すのに丸々2年かかったのですが、大変でしたが、そんなこともありました。簡単に人や組織を信用してはいけないと思う経験でした。

色々なことは、やっている最中に気が付くべきだろう言われると思いますが、終わって みて、全部の数字を整理してみると、札幌オリンピックよりも規模が大きく、当時にはな かった仕事も増えているということがわかった状態でした。

オリンピックのスポンサーというのは看板が出ていないのがわかりますか。オリンピックのときに競技会場にスポンサーの看板はありません。オリンピックをあらわすデザインされたもので全てきれいに装飾はされていますが、スポンサーの看板というものはないのです。ですから、手間はアジア大会のほうがかかるし、職員数は少ない。過労で倒れるかもしれないと思ったのは、僕だけではなく、ほぼ全員だったと思います。

僕などはまだいいほうです。曲がりなりにも、その当時の総務部長で、問題があれば引っ張り出され先頭に立ちますが、問題がなければたまには早く帰れます。職員のみんなよりは先に帰っていました。残ると嫌な顔をされることも多いので、なるべく早目に帰ったりしていました。

ここから先は、皆さんの中で覚えている方はいないかもしれませんが、実は書籍問題というニュースがありました。大会開催2週間ぐらい前です。選手ホテルとして、私たちが準備していたホテルに、ある書籍がありました。その書籍自体は歴史の解釈や主張も書かれているものであると、なぜそういうものが置かれているホテルを選手ホテルにするのかというニュースでした。

私たちの考え方と整理の状況、これはよく聞いてください。

僕たちはそういう話を最初からホテルと調整しています。先ほどクリーンベニューという話を前段でしていますが、全てのものを取り払い、ホテルの中に本やコマーシャルなどはないのです。そういう形で使わせていただくことを了解していますということで話を進めています。

ただ、やるタイミングをいつにするかというのはもう少し先という状況の中だったのですが、日本の方ではない方のインスタかツイッターか何かで、このホテルにはこういう本があるということになり。そうすると、中国系の新聞社がそういうニュースを流し、それを受けて一緒になってニュースを流した日本国内のマスコミがありました。正しく裏づけの取材をしてほしいと思ったのですけど。

これは、非常につらかったです。いろいろな電話を何百本もいただきました。回り回って僕のところに来るわけですから、その前には、担当の方々が受けているわけです。正直に言うと、この対応で仕事が約2週間完全に停滞してしまいました。

ただ、終わってみてよかったかなということが1点あります。この件でパブリシティーが行き届いて、日本全国の方がアジア冬季大会札幌開催を知ってくれました。そうすると、落ちついた後にチケットの販売量が急激に伸び、ほぼソールドアウトしました。これは、そういう苦労はしたくなかったのですが、逆転の発想で考えると結果はよかったかなと思います。

それから、国旗・国歌の問題は皆さんご存じでしょうか。

第2回のアジア大会のときに、国歌のかけ間違い、それから、国旗の掲揚のときの向き の違い、それから、ある国の国名の正しい表記の違いという問題がありました。

僕は、第2回のアジア大会のときに支援で手伝いに行っていたのですが、ここに一緒に行った人が1人か2人はいるかと思います。実は、僕は国歌のかけ間違いの現場にいました。観客席がこの辺にあって、僕が台の上に上がって、選手が表彰台に上がるのを見ながら放送室に向ってキュー出しをしていました。

一位が上がって、はい、かけてと言ったら、違う曲がかかりました。そうすると、観客席の人たちが急にざわつくのです。応援の国旗を持ってきて、僕を殴ろうとするのです。そういう現場にいたのですが、なぜそれが起きてしまったかという原因については、当時の責任者が処分されていますので語りません。お墓まで持っていきます。今の時代では決して起きないと思うのですが、その当時の製品の問題や、いろいろな問題があると思います。今であれば起こらないことだと思うのですが、それが原因なのかと思います。

そういうことがあった、気をつけなさい、気をつけなさい、気をつけなさいとずっと言われていた6年間でした。しかし、そんなことを言われるまでもなく僕は経験者として嫌な目に遭っていて、問題が起きたところ全部に立ち会っています。目の前で問題が起きて厄落としをしなかったのが悪かったのかと思うこともありました。

それから、前に話しましたが、人は信用してはいけないということです。大丈夫だよ、 うちの選手団はしっかり登録されているし、何の問題もないと言っていながら、なぜか来 てみると国籍が違うことがありました。国名は言いませんが、強いチームをつくるために 違う国籍の選手が入っていたりすることがあります。もしくは、弱いチームなのだけれど も、なかなか普通では行けないし札幌はいいところだからぜひ行きたいということで、役 員に手を回し一緒に来てしまったこともあるのですが、アジア大会のスタンダードは全体 的に緩いようです。

現実に正式な登録ができない選手がまざっていたり、選手数が足りなくて、そのチームが成立しなかったり、参考チームみたいな形で試合をやらせろというむちゃを言ってきたりということがありました。日本人は優しく正直ですから、大丈夫だよと言われたら、ああ、大丈夫なのですねと思うのですが、ふたをあけてみるまではわからないです。本人を前に嘘は付いていないか確認はしづらいです。その辺のさじ加減が非常に難しいと思っています。

あとは、公式の場では、団長の皆さんから、札幌は本当にすごい、これだけの準備をしてくれて、至れり尽くせりでいろいろと考えてくれて、対応もすばらしいという褒め殺しのような発言がたくさんありました。しかし、終わった瞬間に、ちょっといいかい、リフト代をただにしてくれないかとか、ここでお金を払えと言われたけれども、どうかならないかとか、買い物に行きたいのだけれども、僕のために車を1台用意してくれないかとか、そういうことを言ってくる人がたくさんいました。外国の生活習慣が反映されたアジア大会スタンダードの対応は、国際化が進む中で慣れと対応力を必要とする仕事でした。

個人の感想として正直に言うと、今回のアジア大会というのはミスって当たり前、いろいるな事件が起きて当たり前というぐらい、人もお金も足りませんでした。

議会で決算の数字が出ているはずですが、実質35億円でやりなさいと言われたのですけれども、実際にかかったのはたしか63億円です。ただし、63億円の全部が税金でありません。国から10億円、t o t o の関係から10億円、道庁からもたしか10億円いただいています。それから、これは本当に稀なことですけれども、組織委員会自体が事業収入を10億円得ています。これで30億円になりますので、市からいただいたお金は当初予算とそう変わりません。

今回のような結果を2度出すことはできないと感じています。なぜかというと、アジア 大会の冬季大会自体、まだ人気のある大会ではありません。夏の大会は人気があり、いろ いろなスポンサーがたくさん得られます。比べて、冬季大会というのはスポンサーがなか なかつきづらいのです。

今回、アジア・オリンピック評議会が札幌市に対してスポーツマーケティングの権限の全てを無償で譲渡しましたが、大切な権益を無償譲渡する意味は収入を得ることが難しいということを表していると理解して構わないと思います。これを受けて、組織委員会としてはお金もうけをする手段を講じて一生懸命活動して、どうにか10億円の収入を上げたというような状態です。

そういう苦労もしながら無駄な税金を使わずに、先ほど言った人、物、金、青少年の育成に繋げ、それが単発ではなくて、継続的に持続的に続く、日本国内のスポーツの力を生かしていくことが札幌の発展にもつながります。めぐりめぐって、今度の2019年にはラグビー、2020年には東京オリ・パラのサッカーの会場として札幌も参加します。

皆さんには、こういった裏方で苦労している市職員もいることを理解していただいて、 お小遣いが許す範囲で結構ですので、ぜひとも、チケットを買って、会場に足を運んでい ただければと思います。

私の講演はこれで終了させていただきたいと思います。

ご清聴、ありがとうございました。(拍手)

質問がありましたらお答えいたします。

◎質疑応答

○司会(高井) 質問がある方はいらっしゃいますか。

高橋さんは、講演会が終わった後も少しの間はいらっしゃいますので、個別に質問されてもよろしいです。

質問がないようですので、私から1点質問いたします。

今、ジャカルタでアジア大会が行われております。そちらではいろいろあるようですが、 それについて、もし何かありましたら一言お願いいたします。

○高橋 今、ジャカルタで行われている夏季のアジア大会では、物すごく問題がいろいろ起きています。国旗が落ちたとか、看板が倒れたとか、普通ではあり得ないようなことが起きています。それについて、ジャカルタの人たちは、きっと余り意に介していないだろうと思います。ちゃんと終わっているのだからいいじゃないかぐらいに思っていると思います。これは国民性の違いで、これが日本で起きていると、組織の代表者は、今ごろスポーツ庁や外務省、事によれば宮内庁まで行って、おわび行脚で、あげくの果ては失職というところまで行くのです。

ただ、ジャカルタではそんなことはなくて、いやあ、よくやった、終わった、終わった、 と言って、これだけのことをやれてよかったねと言っておしまいになるのだろうと思いま す。それは、国民性や国の違いなど、まさに、これから歩んでいく国と日本との完成度の 違いかと思います。

- ○司会(高井) ほかに質問のある方はいらっしゃいますか。
- ○フロア お話を楽しく聞かせていただきました。

東京オリンピックが2020年にありますが、施設だけを整える費用で2,550億円かかると言われています。今、札幌では、冬季オリンピックを2030年に招致したいという話がありますが、もしかしたら4年ほど前倒しで開くかもしれないという話が今出てきています。

東京オリンピックというのは、当初は、コンパクトな五輪ということで、なるべく費用をかけないで行うという話になっていたのですが、札幌には、今、レガシーがかなり残っています。札幌から簡単に行ける圏内にインフラなども整っていると思うのですが、2030年あるいは2026年もですが、そのインフラをかなり生かして、コンパクトに五輪を開催することは可能だと思われますか。

○高橋 理想的な部分でいくと、できないことはないと思います。できないことはないで

しょうけれども、結果的にIOCが何を言ってくるかだと思います。

○フロア 向こうの要求ですか。

○高橋 はい。

やはり、オリンピック規模というものがどうしても出てくるのです。札幌は、競技する場としては、競技場面積など具備している要素は100%大丈夫です。ただ、観客席の広さとか、客席数、トイレの数や待機する場所の広さ、役員が詰める場所、選手団が詰める場所などは、45年から50年たってしまっているということで、今回のアジア大会でもプレハブをどれだけ建てたかということなのです。

それがオリンピックのときに許されるかというと、難しいだろうと思います。ただ、賢い人たちがこれからその計画を組んでいくと思いますので、本設、仮設というところのめり張りをつけていって、一時的にお金がかかったとしても、ランニングコストとして余りかからないようなやり方とが必要だと思います。

立場的には、今、離れた場所にいますから無責任な発言はできないのですが、活用する こと自体はできないことはないのかなと。想像の域を脱するものではないのですが、現実 は難しいと思います。

○フロア ありがとうございました。

○司会(高井) ほかにありますでしょうか。

ないようですので、公文書館からお知らせをします。

冒頭にお知らせしましたように、ここは公文書館ですので、公文書等、貴重な文献等があります。このチラシを見られた方は多いと思いますが、実は、このチラシをつくる際に、大会のロゴ等は一切使っていません。それは高橋さんのアドバイスです。過去の大会でも権利関係が非常にあるので、それはなかなか難しいということで、あえて使っていません。それから、上のほうに過去の札幌の大会名を並べてありますが、きょうは、その後ろのほうにこの大会のほとんどの関係の書類を展示しています。

ガラスケースにあるのは、特定重要公文書と言うのですが、実際に札幌市役所が公文書 としてある時期に使っていたものをこちらで受け入れたものです。ですので、非常に貴重 なものです。

これは、見ることはできるのですが、それなりの手続をとっていただくということがありますし、昔の書類というのはとんでもないないことが結構書いてあったりするので、見ていただく際に中を審査する必要があります。今、ごらんになって、中を実際に見たいという方は、2階で所要の手続をしていただければ、後日、実際に中を見ることができます。もう一つは、テーブル側にあるものは、公文書とは違い、実際に刊行されたものです。それは手にとってごらんいただけます。

公文書館にはこういう書類もありますので、この講演をきっかけに、手に触れる機会に

していただきたいと思います。

それから、今言いました過去の大会の中で、二つだけそこにないものがあります。

一つは、1954年の世界スピードスケート選手権という大会の記録です。探してみたところ、図面図というものが一つあったくらいです。また、私が直前に見つけたのですが、これも特定重要公文書というもので、1年間の市の実績をまとめた書類の中に散見されまして、こういう部局ではこの大会でこういうことをやったという部分があったので、それをコピーしたものがそれです。

ちなみに、円山競技場でやったのですが、当時、交通局では、市電を札幌駅前から円山 まで特別の経路で運行したという記録がありました。

それから、高橋さんが苦労された冬季アジア大会の報告書は、きょうはここに持ってきていませんが、公文書館のほうにはあります。図書館等にもありますので、それも見ていただくことができます。ここは、図書館と違って貸し出しは一切しておりませんので、中で閲覧という形になります。

さらに、先ほど第2回アジア大会で、国歌かけ間違いの事件の現場にいたというお話がありましたが、実は、新聞のスクラップも私どものところにはかなりあります。きょうの朝に探したら、ちょうどそのときの場面の大きな記事が出ていたのですが、こういうものも当館では取りそろえております。

それでは、きょうの話を聞いて、来年以降に行われるスポーツ大会の見方が変わるかと 思います。裏でこういう苦労をされている方がいるのだと思われると思います。

それでは、きょうの講演をどうもありがとうございました。

改めて拍手をお願いいたします。(拍手)

◎閉 会

○司会(高井) ここはまだあけておきますので、高橋さんに質問がある方はしていただいて、また、展示をごらんになる方はお残りいただければと思います。

くれぐれも忘れ物のないようにお願いいたします。

どうもありがとうございました。

以 上